

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 平成25年 6月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 小麦 間もなく収穫期を迎え、刈り取りが始まります。子実水分を確認し、適期刈り取りに努めましょう！また、倒伏ほ場や品質に問題があるものは刈り分けし、良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。放射性セシウム対策として、収穫・調製時にほ場の土が収穫物に付着しないよう注意しましょう。
- ◆ 大豆 降雨により滞水しないよう、排水対策を確認しましょう。中耕は初期除草剤（土壌処理剤）の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行いましょう。培土は倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。収穫時に土を噛み込まないよう培土の高さは一定になるよう作業を行いましょう。

小麦

1 収穫作業前の事前準備

- (1) 小麦の成熟期は概ね平年並みと予想され、間もなく収穫時期となります。コンバインや乾燥機などの点検整備や清掃を事前に行いましょう。
- (2) カントリーエレベータや共同乾燥施設を利用して乾燥調製を行う場合は、受け入れ時間や荷受け水分を前もって確認しておきましょう。
- (3) 品質低下を防ぐために、事前に倒伏ほ場や赤かび病の発生状況を確認し、どの順番で刈り取りを行うかチェックしておきましょう。

2 収穫作業の注意点

- (1) 成熟期になったら、子実水分を確認し、概ね30%以下になったら速やかに刈り取りを行いましょ
- (2) 曇りや雨の日は子実水分の低下が滞りますが、晴天には1日に2~2.5%程度低下します。
- (3) 普通型コンバインでは35%前後から収穫が可能です。
- (4) 降雨等で倒伏がひどいほ場や赤かび病等で品質に問題のありそうな場合は、刈り分けして良質な小麦に混入しないよう注意しましょう。
- (5) 放射性物質対策として、収穫・調製時にほ場の土を収穫物に付着させないよう注意しましょう。また、収穫時にコンバインによる土の噛み込みを防ぐため、できるだけ高刈りし、万ーコンバインのヘッダ部に土を噛み込んだ場合は、作業を止めて清掃を行いましょ

※ 高水分小麦の収穫について

最近では自脱型コンバインの性能が良くなり、水分の高い小麦を収穫できるものもあります。しかし水分が高いと、収穫時に粒がつぶれたり、乾燥時に退色粒が発生する危険性があります。やむを得ず高水分での収穫を行う場合には、作業速度や回転数を抑え、丁寧な作業を行い、刈り取り後はできるだけ早く（1時間以内）乾燥作業に入りましょ

3 乾燥について

収穫された麦をそのまま長時間放置すると、変質し異臭麦や熱損傷が発生します。刈り取り後はできるだけ早く乾燥機へ搬入しましょ。また、乾燥機的能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行いましょ。

- (1) 送風温度は子実水分が高いほど低く設定します。子実水分 35~30%では送風温度 40℃以下、子

実水分 30%以下では送風温度 45℃以下とします。

- (2) 高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する場合があります。
- (3) 水分が高いほどテンパリング時間は短く設定します。(子実水分 30%前後では 1 時間以内)
- (4) 乾燥機への張り込みは循環型乾燥機では容量の 7 割程度、平型では堆積の高さを 20cm 程度に抑えましょう。
- (5) ビンやサイロに一時貯留する際は、水分が 17~18%程度になるまで 1 次乾燥してから貯留し、3~4 日以内には仕上げ乾燥を行いましょう。仕上がり水分は 12.5%以下です。

大豆

1 概況

今年の大豆の播種作業は概ね順調に行われました。少雨傾向のため播種から出芽までの日数は平年よりもやや長めですが、出芽揃いは比較的良好で生育も概ね順調です。

2 排水対策の確認

大豆の生育初期は梅雨の時期に重なります。降雨後の滞水により湿害や茎疫病などの病害が発生しないよう、畦溝と排水溝との連結、明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないかの確認、排水口（フリードレン下部）の掘り下げなど、ほ場内排水を促進するよう努めましょう。

3 中耕・培土

- (1) 中耕培土は、大豆の 2~3 葉期に 1 回目を実施することが一般的ですが、初期除草剤（土壌処理剤）の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行いましょう。
- (2) 培土は収穫時に土を噛み込まないよう高さを揃え、根元まで土がかかるように行いましょう。

※ 中耕培土の効果

- ・雑草防除
- ・倒伏防止
- ・土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる
- ・発根を促進し、根群を発達させる
- ・土壌の排水を良好にする

4 生育期の除草剤散布について

近年、広葉雑草を対象として、大豆の生育期に全面散布できる除草剤や、畦間あるいは畦間・株間に処理できる非選択性除草剤の登録が増えてきました。発生する草種や発生量を確認し、効果のある剤を遅れずに散布しましょう。

生育期の広葉雑草を対象とした除草剤の特徴と散布方法の注意点は以下のとおりです。

(1) ベンタゾン液剤（全面散布）

- ア 選択性除草剤であり、作物の上から散布できます。
- イ 散布用具として、既存の器具が使用可能です。
- ウ 大豆の品種によっては薬害を大きく受ける場合があります。
- エ 広葉雑草の光合成を阻害する作用を持っています。晴天が続くときに散布することで、効果的に使用することができます。
- オ イネ科雑草には効果が無く、シロザ・ツユクサ・ヒユ類・エノキグサ等に対する効果が不安定ですので、これら雑草の優先するほ場では使用を避けます。
- カ 水稲用のベンタゾン液剤は使用できません。必ず大豆用のベンタゾン液剤を使用してください。
- キ 出来るだけ早い時期（雑草の葉齢が小さいうち）に散布すると効果的です。

(2) グリホサートカリウム塩液剤（畦間処理）

- ア 非選択性除草剤であり、作物に飛散させないよう十分に注意します。
- イ 株間には絶対に散布してはいけません。
- ウ 散布器具として吊り下げの専用ノズルが必要であり、飛散防止用カバーを用いて散布するようにします。
- エ ベンタゾン液剤では効果の低い草種が優先するほ場でも高い効果が得られます。
- オ 散布後に発生する雑草に対しては効果がありません。

(3) リニュロン水和剤、グルホシネート液剤（畦間・株間処理）

ア 非選択性除草剤であり、本葉に飛散させないように十分に注意します。

イ 散布器具として、吊り下げの専用ノズルが必要です。

ウ 畦間及び株間の雑草に対して効果が期待できます。

エ リニュロン水和剤はイネ科雑草には効果がなく、シロザ等に対する効果が不安定ですが、雑草茎葉兼土壌処理剤であることから、散布後に発生する雑草に対しても抑制効果が見込まれます。

オ グルホシネート液剤は、ベンタゾン液剤では効果の低い草種が優先するほ場でも高い効果が得られます。

次号は7月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。